

保育北九州

令和8年9月1日
発行 (一社)北九州市保育所連盟
〒805-0019
北九州市八幡東区中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話(093)661-2153番

発行人 林 田 猛 利
編集人 西 敏 昭

2026 **222**



〈提供 若松支部〉

「はなびたいかい」

(5歳児の作品)

表紙	1
特別企画 こども施設企画課全員集合!!	2～3
「仲間たち」	4～5
研修・一期一会	6
支部近況	7
雑感・編集後記	8



日頃からお世話になり、親しくさせていただいている保育所担当の方々の素顔を紹介させていただきます。

①役職・氏名 ②担当業務 ③ひとこと(自己アピールや最近ほまっていること、身の回りで起こったユーモラスな出来事等)

- | | | | | | |
|--|--|---|---|---|---|
| <p>①子ども家庭部長 甲山 乙也</p> <p>②部の総括</p> <p>③親戚の田植え&稲刈りへの参加が毎年の楽しみです。田んぼに整然とならぶ稲の緑と、ご褒美にいただく新米に癒されています。</p> | <p>①こども施設企画課長 鈴木 修</p> <p>②課の総括</p> <p>③常に皆様への感謝の気持ちを忘れず、漫画やドライブ等の趣味も含め「生きる力」を育みます。</p> | <p>①企画係長 和田 太輔</p> <p>②企画係の総括</p> <p>③週末はドローン飛ばしています。勢いあまって国家資格までとっちゃいました。</p> | <p>①企画係主査 豊嶋 奈美子</p> <p>②乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)等</p> <p>③子育てが落ち着く頃なので、自分時間をどう楽しもうか、やりたいことを考えてわくわくしています。</p> | <p>①企画係主任 吉田 賢輔</p> <p>②経理・予算・決算、表彰</p> <p>③2匹の犬と暮らしています。飼主に似るといふのは本当だなと実感しています。</p> | <p>①企画係 山本 優</p> <p>②課の庶務</p> <p>③趣味はウエイトトレーニングで</p> |
|--|--|---|---|---|---|

- | | | | | |
|--|---|---|--|--|
| <p>①DX推進担当係長 細田 佳織</p> <p>②係の総括</p> <p>③白玉好きです。水加減が決まる時、表面がつるんと整う時、鍋底からふわりと浮く時、どれも格別です。</p> | <p>①DX推進担当主任 元重 美佐</p> <p>②システム運用・保守等</p> <p>③Switchでポケモンするのが楽しいですが、一生ポケモンの名前が覚えられません。</p> | <p>①DX推進担当 本嶋 彩</p> <p>②保育料、施設等利用給付等</p> <p>③国内外問わず旅行大好き、特に北海道と韓国ならお任せください。英国一人旅を夢見て英語の勉強中です…。</p> | <p>①運営支援担当課長 江口 和孝</p> <p>②運営支援担当ラインの総括</p> <p>③子どもが大きくなり、誰も相手をしてくれないので、一人寂しくツリーニングとランニングの日々です。</p> | <p>①運営支援係長 中嶋 啓太</p> <p>②運営支援係の総括</p> <p>③体力の衰えを特に感じる今日この頃です。リフレッシュの大切さが身に染みます。</p> |
|--|---|---|--|--|

- | | | | | |
|--|--|---|---|--|
| <p>①運営支援係 久保 航大</p> <p>②保育所型認定こども園の給付等</p> <p>③土日のほぼ毎週、野球をしており、日に日に黒焦げに焼けています。今は全国大会目前です。</p> | <p>①運営支援係主任 大森 朗徳</p> <p>②私立幼稚園の給付等</p> <p>③休日に子どもたちと公園巡りをするのにハマっています。おすすめの遊び場がありましたら教えてください。</p> | <p>①運営支援係 上田 和夏</p> <p>②認定こども園の給付等</p> <p>③ランニングを趣味にしようと思いついたが、三日坊主で終わりました。最近の趣味は美味しいごはん屋さん探しです。</p> | <p>①運営支援担当係長 花田 滋保</p> <p>②運営支援担当ラインの総括</p> <p>③息子とハマルポケGO。世界中の人と強敵と戦う。国境も戦争もない平和な繋がりを日々実感中です。</p> | <p>①運営支援担当主査 井寺 大悟</p> <p>②民間保育所(八幡東・西)、家庭的保育事業</p> <p>③今年からバラダ菜園を始めました。費用対効果は???ですが、オクラと枝豆の収穫を楽しみにしています。</p> |
|--|--|---|---|--|

①運営支援担当主任 **鹿毛 春美**

②小規模保育事業・事業所内保育事業等

③甥のお供で恐竜や動物の展示を観に行くようになり、最近ワササウルスを覚えました。

①運営支援担当主任 **白水彩也香**

②民間保育所小倉北・南等

③基本インドア派ですが、せっかくパスポートを更新したので、海外旅行を楽しみたいです。

①運営支援担当 **藤富 奈津子**

②民間保育所(門司・戸畑・若松・指定管理)

③「いちかわ」に登場する「くりまんじゅう」にメロメロです。マスコット各種取り揃えてあります。

①認定管理担当課長 **明石 慶生**

②利用調整係・施設調整担当の総括

③テレビで紹介されたコンビニスイーツの食べ比べに癒されています。

①利用調整係長 **岸本 洋**

②利用調整係の総括

③諸事情で、私は現在松葉校。小学校最後の夏休み。果たしてキャンプに連れて行けるのでしょうか？

①利用調整係主任 **豊田 直也**

②病児保育事業等

③子が1歳になり、活発に毎日を過

ごしています。日々成長を感じています。

①利用調整係主任 **吉田 侑矢**

②直営保育所の運営等

③今年は色々なジャンルの料理に挑戦してみたいと思います。

①利用調整係 **津野 詩音**

②利用調整等

③「趣味地域活動」休日はボン・ジョーノ中心に季節行事や地域の声を形にする企画運営に全力です。

①施設調整担当係長 **森 英之**

②施設調整担当ラインの統括

③最近D・Yに興味を持ち始めました。ホームセンターなどで色々な道具を見て勉強中です。

①施設調整担当主任 **松田 恵**

②直営保育所維持管理等

③数か月前の足の骨折により、まだリハビリ中。早く自由に動き回りたいです。

①施設調整担当 **坂井 美憂**

②指定管理業務等

③社会人1年目、実家に帰って愛犬とコロコロが癒しです。

①指導支援担当課長 **伊藤 京子**

②指導支援・栄養指導・特別支援・医療支援の総括

③最近、宝満山に登り、きれいな景色を見てきました。心穏やかに健康に過ごしたいと思っています。

①指導支援係長 **竹中 陽子**

②指導支援係の総括

③保育士・保育所支援センターのインスタ投稿を若手に学びながら発信を楽しんでいます。

①指導支援係主査 **杉山 成史**

②保育士就職支援等

③仕事で絵や動画作成ができることが楽しいです。北九州市の保育の魅力が伝わる広報をがんばります！

①指導支援係主任 **黒枝 瑞穂**

②認可外保育施設に関すること等

③旅行が好きで、子どもが生まれてからは、各地の子ども向けの遊び場や施設を調べてめぐっています。

①指導支援係主任 **泉 実代子**

②保育士・保育所支援センターコーディネーター兼WWC北九州保育サービスクンシェルジュ

③国内でまだ行ったことがない所に行ってみたりなど思ったり、列車旅もいいなと思うたりしています。

①指導支援係 **鍛冶 幸子**

②保育士・保育所支援センターコーディネーター兼WWC北九州保育サービスクンシェルジュ

③キャンプができるようになった愛犬(柴犬5歳)と、そろそろ遠出ができそうに楽しみにしています。

①栄養指導担当係長 **磯田 陽子**

②保育所給食に関すること

③庭の草むしりに追われる毎日です。雑草の生命力と成長の速さにうらやましさを感じています。

①栄養指導担当主査 **小畑 祐子**

②保育所給食・食育に関すること

③家猫2匹と実家猫3匹との猫三昧の日々。ただそこにいただけで半端ない「癒し力」に救われています。

①特別支援担当係長 **村口 美香**

②特別支援係の総括

③汗をかきたくてよもぎ蒸しに通いはじめました。運動は苦手ですが、アスリート気分になっています。

①特別支援担当主任 **木川 裕加里**

②障害児保育、親子通園事業等

③ペット動画を見て、癒される日々にあこがれています。いつか飼いたいと熱心にイメトレ中です。

①特別支援担当 **平田 久仁子**

②保育ソーシャルワーカー

③バードウォッチングが好きでいろんな鳥を見ては癒されています。

①特別支援担当 **吉住 敦子**

②保育ソーシャルワーカー

③年々、子どもたちと先生方と丁寧に向き合いたいという想いが募ります。心の育ちを大切にしたいと思っています。

①特別支援担当 **深堀 和枝**

②保育ソーシャルワーカー

③朝ウォーキングに始まり、夜星空観察。自然の恵み、宇宙の神秘、大さに喜びと感謝。

①特別支援担当 **白井 洋子**

②保育ソーシャルワーカー

③趣味は早朝ウォーキングです。朝日が昇り始めた空の何とも言えないグレースーションは最高です。

①医療支援担当係長 **向野 立代**

②医療支援係の総括

③ホークスの応援です。月1回ドームへ行き、一体感のある応援に大きな声を出してストレス発散しています。

①医療支援担当主査 **小林 和枝**

②医療的ケア・感染症対策・重度障害児等への対応

③庭に出て、四季それぞれの草花を見て心癒されていますが、この時期は、蚊の襲来に注意です。

仲間たち



子どもたちと向き合う時間を大切にしたい―そう願いながらも、保育現場は日々の書類作成や行事の準備、保護者対応など、多くの業務に追われています。園長として現場を支えながら判断を重ねる中で、効率化を求める一方、「保育は人が行うものではないか」という思いも根強くあります。日々の業務に追われる中で、本来大切にしたい時間が圧迫されていると感じている現場も少なくありません。

そうした中、近年注目されているのが「AI」の活用です。「AI (Artificial Intelligence)」とは、人工知能と呼ばれる技術のこと、人間が行う知的な作業をコンピュータで実現しようとする技術や研究分野のことです。AIは次のようなことができます。「①文章を理解・生成す

る②画像を認識する③音声を理解する④翻訳する⑤データから学習して予測する」ということです。現在ではスマートフォンアプリなどでも手軽に利用できるようになっており、身近なツールの一つとして広がりがつつあります。

今回は、AIを活用している園を探すにあたり、私自身が所属する「北九州市私立保育連盟青年会議（以下、青年会議）」の会員にアンケートの協力を仰ぎました。本稿では、そのアンケート結果をもとに、保育現場におけるAI活用の実態と可能性について考察します。

Q1 AIを使用している園はありますか？

・青年会議所属メンバーに問いかけた所、20園中9園がAIを「活用している」と回答しました。

○すでに一定数の園で実務に取り入れられている現状が明らかとなりました。

Q2 AIを使い始めたきっかけと、最初の活用方法を教えてください。

・業務効率化が主な理由です。特におよび作成や案内文作成など、文章業務の負担を減らしたいと考えたことがきっかけです。最初は文章作成から始めました。

○多くの園が「まず文章作成から」という共通点を持っていました。AI活用の入口として最も取り組みやすい分野と言えます。



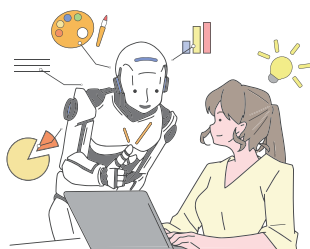
Q3 現在はどのような場面でAIを活用していますか？（実際に使っているツールと、その使い方を教えてください。）

・現在は「ChatGPT」での文章作成だけでなく、議事録作成や資料作成に「Nota」「Airreporto」などを使い、会議内容の要約などにも活用しています。

○「対話型生成AI」を利用している園が最も多く見られました。また、会議内容の文字起こしや議事録作成に活用できる音声認識ツールを利用している園もありました。一つのAIだけではなく、目的に応じて複数のツールを使い分けている園も見られました。

Q4 一番効果を感じている使い方は何ですか？

・文章作成の効率化です。ゼロから文章を考える時間が減り、下書きをもとに修正する形で作業できるため、大幅な時間短縮につながっています。特に、おたよりや案内文など、定期的に作成する文書で効果を感じています。



・会議資料や議事録作成、文書作成などの事務作業をAIに補助してもらったことで、業務時間の削減につながっています。その結果、職員との打ち合わせや

現場確認など、本来注力したい業務に時間を使いやすくなりました。

○「全部任せる」ではなく、「たたき台を作ってもらおう」という使い方が主流のようです。また、浮いた時間を保育や職員とのコミュニケーションに充てているという回答も見られました。

Q5 判断に迷う場面でのAIの意見を参考にすることはありますか？（AIの提案をどの程度採用していますか？）

・あります。ただし、最終的な判断をAIに任せることはありません。考え方の整理や別の視点を得るための参考として活用しています。

・AIの提案をたたき台として活用し、園の実情に合わせて修正しながら使用しています。

○そのまま採用することは少なく、七割方採用という回答、また、内容を確認した上で必要な部分だけ取り入れているという意見が多く見られました。AIの回答を鵜呑みにしない姿勢が共通していました。

Q6 職員にAIの使用について方針やルールはありますか？

・積極的に使用を促しています。「まずは自分で考えて、そのあとAIに聞いてみる、確認してみる」という方針をとっており、園内研修も実施しています。

○積極的に活用を促している園もあれば、組立中の園、個人の判断に任せている園、方針やルールはないとい

う園、様々な回答がありました。園によって温度差が見られた項目です。

Q7 導入前と比べてどのような変化がありましたか？

- ・文書作成にかかる時間が短縮されました。また、自分では思いつかない表現や視点を得られるようになり、業務の幅が広がったと感じています。
- ・事務作業の負担が軽減されたことで、以前より余裕を持つて業務に取り組めるようになりました。結果として、子どもたちと向き合う時間の確保にもつながっていると感じています。

○「あまり使えていない」「まだ導入できていない」という園がほとんどでした。導入している4園の意見を見ると、事務作業の時間が短縮され、業務への負担感が軽減したという声が多くあり、AI導入の効果を実感しているようでした。また、時間的な余裕が生まれたことで、子どもと向き合う時間が増えたという意見が見られました。業務効率化の先にある保育の質向上も期待できそうです。

Q8 逆に困ったことや、不安や課題はありますか？

- ・AIの回答が必ずしも正しいとは限らないことです。もっともらしい内容でも事実確認が必要な場合があります。内容を精査する時間は欠かせません。
- ・AIの回答をそのまま引用するのはなく、必ず人間が確認することが大切です。また、ハルシネーション(AI

が事実ではない情報をあたかも本当のこのように答えてしまう現象もあるのです。鵜呑みにしないことがあげられます。AIを使いこなすにはちよつとしたコツ

があるので、それを伝え活用促進に繋げることが課題です。

○情報の正確性や個人情報情報の取り扱いを心配する声が多くありました。ルールづくりや研修の必要性も感じられます。

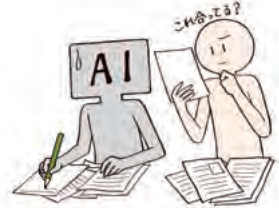
Q9 保育や園運営にAIは必要だと思いますか？

・必要です。AIに保育はできませんが、保育知識が豊富な人にいつでも相談できるという認識でいいのかと思います。

○必要であるという意見が多く見られました。ただし、「補助的な存在として」という条件付きの意見がほとんどでした。AIへの相談は、本来の意味での「いつでも」が成立することに強みを感じます。

Q10 AIに任せてはいけない部分はどこだと思いますか？

- ・子どもの成長記録など。
 - ・自園の理念や思い。
 - ・感情の部分。
- 子どもへの関わりや保護者対応、人



間関係に関する判断などは人が担うべきという意見が多く見られました。保育の本質は人にあるという考えが強く感じられました。

Q11 今後AIとの関係はどのようなようになっていくと思いますか？

- ・遠くない未来にはAIがなくてはならないものになると思います。
- ・ガラケーがスマホに変わった時のように、気づけば当たり前でみんな使っているものになると思います。
- ・全員使っている環境になると思います。

○今後さらに活用が広がると考えている園が多く見られました。「使うかどうか」ではなく「どう使うか」の時代になりつつあると感じました。

Q12 印象に残っているAI活用のエピソードはありますか？

- ・急ぎの文章作成や資料作成、会議後の議事録整理などで助かりました。
- ・AI導入の園内研修をした際に、若手から「使っているんだ」と声が漏れたこと。

・クリスマスに午睡している子どもの写真を撮って、そこにサンタがプレゼントを置いているような写真を作りました。その写真を見た子どもたちは目を輝かせていたので、すごく印象に残っています。

○「時間がない時に助かった」という声が多く、忙しい保育現場との相性の良さが感じられました。クリスマス

でのAI画像生成のエピソードは個人的にぜひ真似してみたいなと思いました。また、私が青年会議の会員に話を伺う中で、「AIは職員の一人として扱っている」という言葉が印象的でした。AIを単なる機械ではなく、業務を支える存在として捉えていることが伝わってきました。

今回の調査から、AIはすでに保育現場において一定の役割を担い始めていることが明らかとなりました。しかし、その活用方法や位置づけはまだ模索段階にあり、今後の重要な検討事項であると言えるでしょう。

今後、AIはさらに身近な存在となり、保育現場にも広く浸透していくことが予想されます。その中で求められるのは「使うかどうか」ではなく、「どのように使うか」という視点です。保育において大切にすべき価値を見失わず、AIの特性を理解した上で適切に活用していくことが、より良い園運営につながるのではないのでしょうか。



研修・一期一会

第68回全国私立保育研究大会 (北九州大会)



令和8年5月20日(22日)に開催された「第68回全国私立保育研究大会北九州大会」に、スタッフと受講者の両方の立場で参加しました。大会テーマである「Restart ほしいくで未来はかわるっちゃ!」きつと見つける私たちにできること」Kitakyushu Action!」の橋原大会実行委員長の威勢の良い

一声で幕を開けた本大会。全国から2000余名の保育関係者を招き、「こどもまんなか」や「共主体」の考えをもとに、輝く未来のために私たち保育者に何ができるのかを共に考える3日間となりました。

初日は受付業務を担当し、ロビーに充満する参加者の保育に対する熱意を肌で感じながらのスタートとなりました。行政説明・基調報告の後には大豆生田啓友氏・長田浩志氏・山口有紗氏・北野久美氏によるシンポジウム。AIが発達する時代だからこそ、子どもの心に寄り添える保育者の専門性の大切さを改めて学びました。「あゝ心地よい」と感じられる瞬間に寄り添うことが保育者の役割であるという言葉が特に印象に残り、私自身もワクワク感や幸福感を抱きながら保育を楽しんでいたと感じました。

2日目は、第8分科会「職員の資質向上(専門性と学び合い)」に参加しました。3園の実践発表を通して、主体的に学び合う職員集団づくりや、保育者の前向きな言葉が職員の成長に繋がることなど、多くの学びを得ました。自身の課題とも重なる内容であり、今後の保育に生かしていきたいと思っています。

最終日の記念講演では、福岡ソフトバンクホークス元監督・工藤公康氏

が、自ら行動(後ろ姿)で示すリーダーシップの大切さを語られました。その姿勢は保育現場にも通じるものであり、深く心に残りました。

3日間を通して、多くの刺激と学びを得るとともに、「一人ではない」という心強さを改めて実感しました。本大会で考えた『私たち保育者にできること』を、子どもたちのため、園のため、そして自身の成長のために生かし、今後も学び続けていきたいと思っています。また、北九州市で開催された全国大会にスタッフとして携わるという貴重な経験ができたことを大変光栄に思い、感謝しています。

陣原保育所 西岡 彩

第10回九州保育三団体研究大会 (宮崎県大会)

令和8年7月16日から17日にかけて宮崎県シーガイアコンベンションセンターにて「すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現」をめざしてという主題の下、第10回九州保育三団体研究大会宮崎県大会が開催されました。

基調講演ではこども家庭庁成育局成育基盤企画課、教育・保育専門官の馬場耕一郎氏より「こども家庭庁の政策」と題して保育政策、人口減少、こども誰でも通園制度、人材確保、性暴力防止、指針改定、安全対策、保育DX等、多岐にわたる政策の動向や

注意点及び取り組んでいく事項を細かくご説明いただきました。まず保育のあり方として「量の拡大」から「質の確保・向上」へ移行している事、人口減少が進んでいく中で地域に必要な保育機能を維持・確保する視点が重要になること、性暴力防止に関する法施行に向け、求人票・就業規則・職員研修・犯歴照会等の準備が必要であること、新しい保育所保育指針では遊びの深まりと0歳児からの学びの連続性が重視される見込みであることなど学びが多く、時間が一瞬で過ぎてしまいました。馬場氏が言われた「アリとキリギリス」の例えを肝に銘じ、中長期的な準備を進めていきたいと思っています。

分科会では第2分科会の子育て支援・多機能化というテーマの下で実践発表が行われました。

どの子も、どの家庭も取り残さないという理念の下、取り組みを可視化したインクルーシブポジショニングマップを作成し、妊娠前から就学前まで包括的に支援する仕組みを構築した実践発表でした。印象に残ったのが助産施設による産後ケアや産後ヘルパー派遣事業を行いながら伴走型支援を実施している事で、いかに自分たちで必要な仕組みを作っていくかが重要であると感じました。インクルーシブとは特別な支援ではなく生活の中に自然にとけこむことという言葉がとても印象的な分科会でした。

認定こども園栄美保育園 宮原 健輔

支部近況

八幡東支部篇

新年交流会

令和8年1月9日(金)に千草ホテルにて八幡東支部新年交流会が行われました。新年会には北九州市八幡東区喜州淳哉区長、宮金満八幡東区次長をはじめ多くの来賓の皆様をお迎えしました。

境目支部長の挨拶で会が始まり、おいしい料理を頂きながら、ゲーム大会とビンゴ大会で楽しい時間を過ごしました。

ゲーム大会は「的あて」をしました。グループ対抗形式で園、来賓、施設長でグループを作り、1グループにつき、的にボールを3回あてて得点を争いました。応援のコールが響きおおいに盛り上がりました。

ビンゴ大会もいろいろな景品があたり、皆さん大喜びでした。

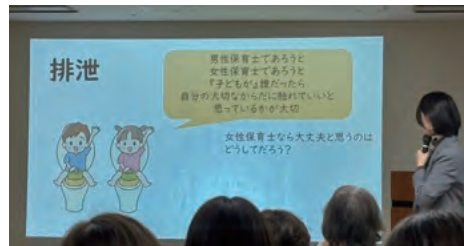
交流会を通して元気をもらい、新しい一年の良いスタートとなりました。

支部研修

令和8年2月20日(金)にレインボープラザにて福岡県助産師会の道

園亜希氏をお招きし、子どもの性について子どもとの関わりを考えるテーマにご講演いただきました。性教育がテーマでしたが、お話を聞き日頃の関わりの大切さを改めて実感し、保育を振り返る良い機会となりました。

また、たくさんの絵本もご紹介していただき、実践に活かせる内容でした。参加した職員からは好評でしたので、前回参加できなかった職員もお話を聞くことができるように今年度も開催します。皆で共有することで、意識を高めていきたいと思います。



保育まつり

令和7年11月1日(土)にイオンモール八幡東のいちいがしの広場にて行なわれました。今回は初の試みとして、八幡東区・西区の合同で開催しました。

例年行っている八幡東区の開催形態をもとに、八幡東区・西区の担当者が各コーナーの遊びを何にするかすり合わ

せを行い、内容を決めました。

当日、広場には保育園マップを展示し、育児相談コーナーを設け、保育所のアピールができたと思います。また、子どもたちが遊べるよう手作りおもちゃコーナー(パッチンがえると手裏剣作り)やお菓子釣りのコーナーを設け多くの方に楽しんでいただきました。

また、着ぐるみとの写真撮影も人気でした。たくさん楽しんだ後は、自分で作ったおもちゃや釣れたお菓子に加えて、かわいい絵や色の豊富な中から選べる手作りコマや絵本のお土産があっ



たこともあり参加した子どもたちも大変喜んでいました。

お土産をお渡ししている時には参加者の方から保育園についてのお尋ねもあり、知っていただく良い機会になったと思います。また、「このような楽しいイベントがあるなんて知らなかった。次はいつですか?」など嬉しいお言葉もいただきました。事前にチラシを配布していたので、知って来て場した方も多かったのですが、ショッピングにきて偶然通りかかった方にも好評で多くの方に参加していただきました。

前年度に引き続き、令和8年7月25日(土)に八幡東区・八幡西区の合同開催2回目の保育まつりを行いました。今年度は場所を八幡西区に移し、イオンタウン黒崎で行いました。





「げんきてね ツマちゃん (ツマグロヒョウモン)」

(5歳児の作品)

雑感

泣いたり喜んだり

去年の春、年長組さんと一緒に、園外保育に行きました。園外保育に行く前に、担任の先生に、歌を2曲ほど練習しておいて下さいと伝えていました。園外保育に行った先で、2グループに分けて紅白歌合戦をしてもらおうと思ったからです。

目的の地に着き、ひと段落した後、歌合戦が始まりました。担任がクラスを2グループに分け、私が審査員になりました。一発勝負の歌合戦です。先攻が歌い終わり、次に後攻が歌いました。後攻は、先攻の様子を見て、それを越えようとするので、後攻の方が有利です。

しかしそのことを踏まえた上でも、結果は、明らかに後攻の方が元氣よく歌っていました。私は、後攻の勝利と判定しました。それまではいつも同点の判定をしていましたが、今年はこちらと判定をつけようと思った。「後攻の勝ち」と判定をしました。すると「わーん」と先攻のグループが泣き出しました。あまりの激しい泣きぶりに、そんなに真剣勝負をしていたのかとびっくりしました。

秋になり運動会の後、また年長組さんと園外保育に行きました。目的地で、様々な遊具で遊び、皆はとても楽しそうにしています。もう帰る時間が迫って来て、広場に移しました。

運動会の後なので、実は私が担任にリレーのバトンを持って来て下さいとお願いしていました。運動会の時よりもずっと広い広場で紅白リレーをすることになりました。

よいいどんでスタートです。広い広場ですが、子どもたちは全力で走ります。そして遂に最終ランナーが

ゴールです。決着がついたその瞬間、「わーん」とまた負けたグループが泣き出しました。また激しい泣きぶりです。私はまたびっくりしました。

その後、園庭では一時紅白リレーごっこが流行っていました。泣きぶりの激しさの濃淡があるだけで、子どもたちの様子をよくよく見ていると、勝負事ではよく泣いている様でした。

去年の子どもたちの姿を通じて、子どもはいつも真剣勝負なのだと思えて知らされたことです。

園庭での自由遊びの時間、見守りをしていっていると、園児たちからよく「先生見とってー」と言われます。鉄棒のぶら下がりがや、足ぬき回り、前回り、逆上がり、自分が出来る様になった技を披露します。

ある日1人の子から「先生見とってー」と言われました。すると、逆上がり足を着かずに2回連続していました。先生たちが教えていないのにも関わらずです。「オリンピック選手になれるね！」と思わず私は言いました。

するとその子は「私ともう1人の子が出来る」と言いました。またびっくりです。その後、更に3人目の子が連続逆上がり出来る様になりました。しかも10回連続です。私が「凄い！」とびっくりしていると、後日、2回連続が限界だった子が、10回連続していました。チャレンジする心、真剣な心、去年は大いに感心する一年でした。

広済寺保育園 嶋田 崇秀

編集後記 — 絵本の魅力再発見 —

美術・絵本評論家の松本 猛さんが「絵本とは何か」のインタビューより。「子ども玩具からアートへ、絵本を世界の扉を開きかけ」、「いま絵本は子どもだけでなく大人も心を揺さぶられる文学」。

美術品として絵本に携わってきた素晴らしさを伝えてきた氏の経験からの言葉です。

近年は少子化が進む一方絵本も多様化し、電子書籍化されタブレット・スマホで読むようになり利便性を求める時代になりました。便利になったはんめん親子でのコミュニケーションが減り想像力が妨げられる可能性が指摘されており、絵本を通してのスキップも薄れてきています。

皆さんも小さい頃お土産に絵本を頂くと、子ども心に何度も読み返し夢中に絵本を読んでいた記憶がありませんか。

先日、近くの行きつけの理髪店で予約時間より早く着いたのでイスに座って本棚を見ると漫画本と週刊誌が並んでおり、ふと別の棚に目をやると絵本が2冊おいてありました。

絵本の事を尋ねてみると数十年前、田舎のお寺の本堂で販売しておりその時2冊自分の子どものお土産として買い求めたとの事でした。一冊手に取り読んでゆくと内容はおじいちゃんと孫の日常の深い絆を通し、その後大好きなおじいちゃんとの別れを通じて、おじいちゃんが遺してくれた色々な言葉を思い出して悲しみから少しずつ前を向いて歩み始める温かい様子が描かれ、作者の、いのちの尊さや味わい深い温かみがとても感じられました。

理髪店での絵本が今も大切に保管され、これからも色々な人に感動と読むたびに新しい発見に出会う事を願っています。

松本 猛さんの「古い絵本が現在もそのままの形で読まれている」という言葉が思い浮かびました。

保育園での絵本は年齢に応じた絵本を選ぶことで、言葉の発達や想像力を育む役割を担っており、こども達と先生との信頼関係を築き集中力を身に付け繋がりを深める大切な時間です。絵本の素晴らしさを語り伝えて行く事の思いを再認識したことです。

「保育北九州」編集委員長 西 敏昭